

いろいろあった販売実習

総合と栄養科 山下 真聖

私は今回の販売実習で店長を務めました。初めは成績関連で有利になるからという理由で。しかし、仕入先の店舗に挨拶をしたり、仕入価格や売価について話し合いをする中で、自分の行動に対して責任を感じるようになりまし

私は店長になり、クラスメイトに指示をしてみたものの、緊張してうまくいきませんでした。そのため、副店長の安藤にサポートしてもらいながら指示を出していただきました。仕入部長や販売部長、経理部長さんたちにも協力してもらったおかげで、準備はスムーズに進み、販売実習に臨むことができました。



た、終了予定時間を一時間延ばして熱心に販売を行いました。しかし、売れ残りも出てしまいました。私の反省としては、売れ残りを出した以前にもっと具体的に指示をしたこと、各部署の部長さんと話す機会を多く作らなかったことなどです。次回販売実習がある時には反省を生かして更に頑張りたいと思います。

稲作りを体験して

農業食品科 一年 田中 美輝

私は今回初めて、苗作りから稲刈りまでをしました。田植えと稲刈りだけは、小学校で毎年行われていたのですが、小学校で毎年行われていたので、機械での作業は初めてでした。

機械に乗っての作業はとてもドキドキでした。ただ、うまく進むだけでもとてもむずかしかったです。この作業を毎年農家のみならずは行っていると思うと、すごいなと思いました。今回のような体験は農業食品科だからこそできるのだと思います。貴重な体験ができてよかったです。

県内高校初！ 薪ストーブの導入

平成二十五年十一月阿蘇清峰校舎図書館に薪ストーブが設置されました。

九州バイオマスフォーラムの助成事業により、地球温暖化対策と環境教育を目的として県内高校初となる導入に至りました。東日本大震災以降、化石燃料に頼らないエネルギーに注目が集まっています。演習林から出た間伐材を有効利用できないか、林業や環境問題について学習しているグリーン環境

科が中心となって導入しました。十一月二十二日には火入れ式を行い、三年グリーン環境科岩下大地君が「薪ストーブ導入により進んだ地球温暖化を軽減したい。また林業森林についても深く学び、阿蘇の森林環境を私たちが守っていきたい」と代表挨拶をしました。



生徒たちは、手入れのされなくなった人工林問題や間伐材利用について学習しており、使用するのは演習林から生徒たち自身が間伐搬出した間伐材で、自分たちのエネルギーを自ら調達することで、地域環境エネルギー問題について課題意識、関心を持つようになりました。

火の国の翼

グリーン環境科 一年 家入 皇仁

私は今年の夏休み、海外派遣「火の国の翼」に阿蘇中央高校の代表として参加しました。台湾研修で印象的だったと思ふ場所は故宮博物館、忠烈祠中正紀念堂の三つです。この三つの場所は建

造物がとても大きく施設内もとにかく広かったです。忠烈祠は入口に門番として二人の兵隊がいてその奥にはとても長く広い廊下のような参道があります。ここでは門番の交換の行進が印象的でした。入口にある兵隊の休憩所から五人の兵隊が出てきて長い参道を行進します。息を合わせて列を乱さずに行進するのがとてもすくなくて印象に残りました。



この台湾研修を通して思った事、やっぱり日本と違う文化や流行環境があるんだなと思いました。日本の文化は穏やかで繊細な感じがしますが、台湾の文化は活発で明るいという感じがします。台湾の人々は何事にも積極的に取り組む人が多いと感じました。自分も少し見習って何事にも積極的に取り組んでいきたいなと研修が終わった後に思っています。この学校の生活に生かしていきたいです。

グリーン環境科 一年 野田 真治

私は今回海外派遣事業「火の国の翼」で台湾に研修に行きました。私は海外に行くことが初めてで、ましてや九州さえも出た事のない私にとってはとても不安でした。しかし、二回の事前研修を経て班の人とも打ち解け、少しずつ不安が和らぎ、どこに不安がわくわくした気持ちは変わっていききました。

研修の三日目は台湾大学試験農場にいききました。この大学の農場には見られない植物が沢山ありました。ガイドさんの話で一番気になった事は職永吉博士の話でした。台湾では昔インデイカ米という米が主流で、現在はパラパラでとても長づら

かったそうで日本の蓬莱米という米を台湾に持ち込んで植えたのが始まりと知り、他にも桃園高級農工職業学校や故宮博物館を訪れ、日本ではできない大変貴重な経験をさせていただきました。最後に、台湾の研修を終えて感じた事は日本がやっぱりいいなということでした。どこか遠い所に行きたいと外国にあげられていたけれど、食文化や文化の違いからやっぱり生れ育った日本がいいと改めて思いました。これも他国の文化に触れて初めて分かった事なので、今後色々な経験を重ね自分を成長させていきたいと思っています。

野球夏の大会

硬式野球部 主将 岩下 竜太郎

私が挑んだ最後の夏、一生に二度しかないチームメイトと共に最高の夏になりました。初戦の八代南清流高校戦を勝ったのは、相手高校の主将が私のところへ来まして、両手には大事そうに羽織帽を持っていました。俺たちの分まで頑張れよ、と涙を流しながら握手をして来た姿は今でも忘れません。

そして、八代南清流高校の気持ちを背負って挑んだ多良木高戦三対一の負けたままの最終回、ベテで一番最初に涙を流しては、スエアを付けていたマネージャーの言葉が、一年の頃からマネージャーを務め、いろんな想いが込み上げてきたと思います。そして、今シーズンに限り、ベンチから出て行く時、泣き声は大きくなっていました。泣きたい気持ちをおさえながら、ナイスマグナムと涙を流して、試合で満足でした。今までの世話になった後藤監督やコーチの先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。また保護者の皆様にもお世話になりました。野球部を応援して下さい。皆様本当にありがとうございます。これからも阿蘇中央高校野球部を宜しくお願い申し上げます。



ホームステイ受け入れを経験して

阿蘇校舎保護者 本山 和美

我家でのホームステイの受け入れは二度目となります。昨年は二人受け入れました。タイの子達は日本が大好きで、日本の文化や言葉や習慣を学びたくて来る子ばかりです。だから日本語は上手だし、お国が明るく人なつこいので、最初戸惑いがあったのですが、積極的に手伝いをしようとしてくれました。たった二日間でしたが、お互い涙を流して別れを惜しむ程です。又来年も是非受け入れをしたいという気持ちになります。皆さん是非経験してみてください。家族を大切にしたいタイの子達に私達が学ばされます。



全体役員会・教育懇談会

総務委員長 広岡 光夫

八月三十日、育友会初めての全体役員会が行われ、あいさつ、五五祭や第一回ふれあいミニバレーボール大会等、これまでの育友会活動についての意見交換を行い、各役員さんより反省や改善点、各役員さんに対しての質問等も多数出されました。その後、各委員長さんより、今後の事業計画について発表があり、会員の皆様のご協力も得ながら育友会活動

を盛大に行うこととなりました。各種研修会報告として、家入会長より、情報化社会の現代、携帯電話からいろいろな情報が入り込んでくる、多量に巻き込まれるケースも多いため、「母と息子のルールづくり」について報告がありました。携帯電話を安全に楽しむ、犯罪に巻き込まれない為に、母から子供に携帯電話を使用することはルールや規制が付いてくる。約束ことを決めた

「使用契約書」を作り、この規制を守れなかった場合は取り上げ、失敗した話を話し合ったり、一緒に答えを出して、また一からスタートしていくということでした。山下校長先生からは最近の教育、学校を取り巻く状況、生徒達の様子について話していただきました。全体役員会終了後、両校舎の先生方と教育懇談会を行いました。初めての先生方とも話すことができ、大変有意義な懇談会でした。



今後の予定

- 八月(水) 始業式
- 八月十八日(土) 大学入試シテラー試験(二日目)
- 八月十九日(日) 大学入試シテラー試験(三日目)
- 八月二十二日(水) 三年学年末考査(二十八日)
- 八月三十日(土) 城北駅伝
- 九月十日(月) 阿蘇管区ロードレース大会
- 九月十四日(金) 一・二学年末考査(十九日)
- 九月十八日(金) 表彰式・同窓会入会式
- 九月二十日(土) 卒業式
- 九月二十四日(月) 終業式
- 三月二十八日(金) 転入学式

編集後記

晩秋の夜、阿蘇校舎で担当の先生、委員長、役員の方々と私は慣れない標野の新聞づくりに頑張りました。文化祭、部活動で頑張っている写真や先生方、生徒たちの書いた原稿を見て、皆さんが熱意が伝わり、とても嬉しくなり、秋の物悲しさや空腹感が吹き飛んでしまいました。きっと保護者、関係者の方々がこの標野の新聞を読んでいただくと心から期待しています。

これから阿蘇の厳寒に向かい眠りに入る動物達もいますが、私達は時には立ち止まりながらも寒さに負けずに前進していこうと思います。 広報委員 佐藤 保光